



【Free Report】

～速読だけでは、意味が無い！と考えたことがあるあなたに～

どうやれば、あなたが大量の情報に 悩まなくなるのか？

速読と、「情報活用の技術」を身につけることで、速読は大いに
役立つ技術に変わる！

「速読」 + 「情報活用」で実現するお悩み解消法を解説。

スキルアップコンサルタント・MBA

牛山 恭範 (Yasunori Usiyama) 執筆・編集

はじめに

錬金術ならぬ、錬時術があるとすれば・・・



(ウィキペディアより画像引用)

世の中には、錬金術と呼ばれるものがある。実現するのかどうかは別として、金を錬成する試みのことだ。私はこのような禁術には興味が無いが、昔から時間については大変面白いものだと感じるが多かった。なぜならば、時間は人生そのものだからだ。錬金術ならぬ、錬時術は無いのだろうか。

人生の時間は有限である。しかし、時間を生み出す方法はある。その方法とは、「速くすること」である。もちろん、、、せっかちな読者の中には、「人に任せれば、速くするよりずっといい」という人もいるだろう。

まったくその通りである・・・あなたは正しい。

ところで、このレポートを読むのにそんなに時間はかからない。少なくとも、あなたが人生でこのまま生きて失う時間に比べると、ずっと少ないことは保証しよう。(も

しもあなたが今 100 歳を過ぎているなら別だが。)「人に任せればいい」という経済的観念がしっかりしている人なら尚更のこと、深く理解しているはずだが、より良い方法は、1つである必要はない。人に任せる仕事は一つでなければならないことはないのと同じで、時間を生み出す手法は一つに限定しなくても良い。いずれにしても、やはり速くやることは時間を生み出すことには変わらないからだ。

あなたの悩みは何だろうか。本を読み、解決する問題も世の中にはある。本を読めば全部解決することは無いかもしれない。しかし、ネットの情報や本の情報によって、人生が変わることもある。

今この記事を書いている私も、その一人だ。病気を本で克服し、会社を起こし、毎日経営者として活動している。人生の転機はたった一冊の本との出会いだった。それまでは、ありとあらゆる治療法を試し、多くの病院に行っても、まったく病気が良くならなかった。いくらお金をかけても、いくら時間をかけても、高名な医師に頼っても良くならなかった病気が本一冊で嘘のように治ってしまった。

あなたの悩みは何だろうか。あなたは、その悩みを解決しようとしたらどうか。あなたの夢や目標が高いのであれば、簡単にはいかないかもしれない。しかし、情報処理の力は、あなたに一生涯大きな力を与えてくれるだろう。本、インターネット、セミナー、サロン、DVD など、あらゆる情報を活用しよう。

この無料レポートでは、あなたの情報処理スキルを高める秘訣をご紹介します。

第1章 速読の簡単な習得方法

「速読暗記勉強法」の著者が教える

速読を最短で身につける考え方



図：「速読暗記勉強法」日本実業出版社 牛山 恭範（著）

「私なんか速読は身につけられない。」

「速読は、激しい訓練によって初めて身につくものだ。」

こんな誤解が多い。

速読は、短期間で身につけることができるスキルだ。

休日にパパと読書の講習を受けるだけでも、人の読書スピードは高まる。

速読は別にエリートのための技術ではない。

誰でも簡単に身につけることができる技術だ。

速読は長い年月をかけて修得するものだという認識が強い人は、速読について、「能力開発」のイメージを持っている。速読は能力開発しなければならないものだという先入観が強ければ、確かに（速読は絶対に短期間ではどうにもならない）という考えが生まれるのもうなずける。

速読は能力開発でもある程度身につく。このことは、国立大学で行われている研究でも明らかにされている。しかし、能力開発だけが、速読力向上に役立つわけではない。

それでは、何によって身につくのか。

簡単に言えば、速読は、技術の習得によって身につく。

要は、ちょっとしたジャグリングや一輪車のような技術なのである。

もっと簡単に言えば、速読は、自転車のようなものだ。難しく考える必要はない。



国立大学で研究される速読

速読は大学で研究されている。読書スピードの訓練をどのようにやれば、より成果が出るのかについて、対照実験が行われている。実験の結果有効だったのは、視野を広げるトレーニングである。

ただ、視野を広げれば読めるようになるというわけでもない。もともとトレーニングの内容は、コツや感覚を身に着けさせるものだからだ。能力開発をしているわけではないのである。

広い視野で、ある意味、ざっくりした感覚で文字を読み取っていくことが、素早い読書を可能にする。

頭が良くないのに成績優秀者

私が通った MBA の大学院では、東大卒や東大院卒が珍しくなかった。一つ上の学年には東大医学部卒が在籍しており、同じクラスにも東大医学部卒がいた。彼は大変

大きな会社で研究医として活躍していた。旧帝国大学の医学部卒や、医師、公認会計士、東大博士課程修了者などもいた。京都大学出身者や、他の国立大学出身者、年商にして、数兆円の世界的大企業のマネージャーなど、大変高学歴なクラスメートが多かった。当然、皆頭が大変きれた。その中で、私は頭が良くないにもかかわらず、成績優秀者になることができた。

その理由はいくつかあるが、大きな理由の一つは速読である。

私は圧倒的に読むのも、理解するのも、暗記するのも速い。理解力がある頭があるわけではない。もともと頭も良くない。記憶力も良くない。しかし、これらの問題を解決するすべを私は知っていた。

大学院に在学中には、本は4～5冊程度2年間で書いた。同時に、3冊程度書いていた時期もある。つまり、学業に絶対的に専念しているというよりは、学業と仕事は両立させたが、学業ばかりをしていたわけではない。

ナレッジモンスターと呼ばれることも・・・

MBA コースで、多様な論点について、発言していると、あるクラスメートが私のことをナレッジモンスターと言った。知識の怪物ということなのだそうだが、自分では意識しないうちに、他の人と大きな差がついていたのかもしれない。

今までに 1 万冊以上本を読んできたかもしれない。私は若いころ病弱だったこともあり、本の虫になってしまった。今でも図書館に行けば、手当たり次第本を読み、ひとりだけ机の上に 20 冊程度の本を山積みにして猛スピードで本をめくっている。速読ができる人とできない人では、一ヶ月に 30 冊程度は、読む本の数が違う。一年でおおよそ 300 冊の違いが出るとして、10 年間で 3000 冊、30 年で 9000 冊程度の知識差が生まれる。1 万冊程度の知識差は人生で十分に生まれる。

速読の練習は【ほどほど】に・・・

それでは、たいした頭を持っているわけでもないのに、東大卒よりも良い成績をとったのであれば、さぞかし大変な努力を重ねて、速読を身につけたのでしょうか、、、と思われるかもしれない。しかし、私は速読の練習はほどほどにしかやっていない。必死こいてやるものではないのである。

必死の形相で速読を練習するようなやり方では、むしろ身につかないのが速読なのだ。

速読は、コツと感覚が分かれば、比較的短時間でモノにすることができる。

もともと私が速読に一番最初に興味を持ったのは、ある伝説の東大生の本を読んで

からだった。その東大生は、東大、京大、慶應、早稲田に合格し、文系、理系両方合格、さらに、東大に二度合格、東大医学部に進学、その後すべての科目を教えることができるスーパーマルチ講師として予備校で活躍し、さらに、東大在学中に薬剤師の試験と、国家公務員第一種に合格するという離れ業をやっている。その人物が、速読と記憶術を大変強く推していた。

私が速読の練習をやっていたのは、16歳くらいのころである。いろいろな速読教材を購入し、たくさん失敗してしまった。

なぜ失敗したのか？

それは、逆説的だが、練習のしすぎだったのである。

どのように練習すれば、身につくのかということばかりが頭をよぎり、完璧主義で考えすぎだった。とにかく目を速く動かしてみたり、練習することにあけくれた。このようなことをやっているときは、ちっとも速読がうまくならなかった。少しも本を読めるようにならなかった。

速読の練習よりも、コツと感覚を理解する

それではどうすれば、速読を身に付けることができるのだろうか。その秘訣は、「コツと感覚」を理解して身に付けるようにすることだ。

速読のコツと感覚を把握してしまえば、本は速く読める。多くの人は、速読の「コツと感覚」を理解することをそっちのけにしてしまい、練習が目的化してしまう。だからなかなか身につかない。

練習は、コツと感覚を理解し、慣れるためにやるもので、練習するからできるようになるのではない。コツと感覚を身に付けるから、できるようになるのである。

人は幸せになると笑うのではない、笑うから幸せになるのだ。

このような言葉があるが、これと同じである。速読の練習をする人に対して、「もっと柔らかく考えましょう」と私はアドバイスをすることがあるが、それを先ほどの言い回しに当てはめると次のようになる。

▼重要▼

人は練習するから柔らかく考えて速読ができるようになるのではない。

柔らかく考えるから、速読ができるようになるのだ。

コツと感覚は教えてもらう

私自身本を書いているが、図式化してあの手この手で説明しても、なかなか本では速読の仕組みを伝えにくい。大手出版社の編集者も驚くほど、細かく速読のコツと感覚を図式化して本にしたが、やはり言葉でなければ伝わらないものもある。

従ってあなたが速読をマスターしたいのであれば、通信教育か、近くのスクールで実際に教えてもらうのがいいだろう。

今の時代、スカイプなどの無料インターネット映像電話でやりとりをすれば、すぐ目の前に先生がいる状態で学ぶこともできる。

第2章 速読をしても理解できる頭作り

速く読むと理解できない？

「速読って言ってもねえ、、、速く読むと理解できないでしょう？だったら意味がないんじゃないですかあ？」

こんなご質問をよくいただく。結論から言えば、仮に速く読んで理解ができないことがあっても、意味が無いことはない。むしろ、意味がある。

「牛山さん、アホなんですか？」

と、質問する前に、ここは話を聞いてほしい。

そもそも、理解することに価値が必ずあるかどうか、理解とは何かということが大切だ。

例えば、文字を読み、その字面を声に出して読む時、これは理解しているだろうか。多くの人はこのように、声に出してゆっくり字面を追う時に理解している。ところが、そうやってゆっくり読んだ本について、「それでは、その本に何が書かれていたのかを説明してください。」と要求すると、とたんに何も言えなくなる人がいる。

これは、理解できていないからである。

例えば、ハーバード大学のマイケル・サンデル教授が書いた、「これからの正義の話しよう」という本について、ゆっくりと字面を声を出すように読んだ人に上記のような質問をした時、「ええと、正義についての話が書かれていました。」という程度のことしか話せない人が多い。これは、既にタイトルに書いてあるので、本の表紙を読めば分かる。読まなくても読んでも同じことなのだ。

理解するとは、アナロジーのことである。アナロジーとは類推のことだ。類推とは、

物事のつながりのことである。物事のつながりとは、自分の経験や知識に結びつけることを指す。つまり、どのようなことを読んでも、理解するということは、常に「自分なりの理解」のことを指す。自分自身の経験や知識に物事を紐付け、「どのように、読み解くのか」ということがひとつには重要だ。

従って、本を読んでも、何も考えていない、ということになると、当然何も理解できないということになる。本を読み、知識ばかりを頭に入れて、何も考えず、人の言っていることをそのままオウム返しにするしか能がなくなってしまうと、このようになってしまう。このような人は、東大卒が出てくると恐れおののき卑屈になり、その後さらに高学歴なハーバード卒の人が出てきて違う意見を聞けば、すぐに手のひらを返したように意見をくるくると変える。自分の頭で考える癖がついていないので、本を読んでも知識しか頭に入らず、物事を考えることができなくなってしまう。

本を読み、理解するとは、その本の内容の主張を見抜き、何をどのような根拠で述べているのかを把握することを指す。

以下の内容は、読み飛ばしてもらっていいが、念の為に「これからの正義の話をしてよう」を要約すると次のようになる。

▼引用部分は面倒ならば、読み飛ばしましょう▼

-----ここから-----

正義をめぐる議論において、何が正しく何が正しくないのかを決める際に重視される点は、過去の歴史を振り返れば次の3点である。自由、幸福、美德の3点である。この3点の内政治的な取り決めの際に考察されるのは、自由、幸福である。個人の権利や公益の利害関係を調整し、何が正しいのかではなく、何が妥当なのかを問いとしてきた。ところが何が正しいのかという問いにこれらの問いを変えた際に、我々は道徳的な基準、すなわち美德の価値判断をせざるを得ない。権利や義務負担の分配を重視すれば、無秩序で正しくない取り決めが行われるし、多くの人に不満を与える。権利や公益を重視するはずの取り決めがうまく機能せず、個人の権利や公益を害するのはなぜか。その答えは美德にある。従来の政治哲学の分野で重視されてきた自由や幸福という価値基準だけではなく、道徳、美德という価値基準を政治的な取り決めを採用する必要がある。正義をめぐる3つの価値基準の関係を正義の原理として様々な問題に適用する為に、そもそも多元的な内容である美德に対する社会の構成員共通の認識と合意を形成する必要があるのではないか。

道徳的、宗教的信念を正義と権利についての公的言説に持ち込むべきではないのだろうか。これらの信念が、政治と法律において何の役割も果たさないという考えに固執するのは誤りだったと私は考えている。理由は二つある。第一に、本質的な道徳的問題を解決せずに正義と権利の問題に答えを出すのは、つねに可能だとは限らない。第二に、たとえそれが可能なときでも、望ましくないかもしれないからである。従来の政治哲学の分野では、これらの問題について、中立の立場を取る事が妥当だとされてきた。しかし、我々は真に中立の立場をとる事はできない。なぜならば、正義には常に判断が関わるからである。その際に論争的について道徳的な価値判断をしなければならなくなる。

公正な社会を達成する為には、善良な生活の意味をわれわれが共に考え、避けられない不一致を受け入れられる公共の文化を作り出さなくてはならない。そのためには、共通善に基づく政治を行う必要がある。道徳に關与する政治は、回避する政治よりも希望に満ちた理想であるだけではない。公正な社会の実現をより確実にする基盤でもあるのだ。

-----ここまで-----

ここまでにご紹介したように、速く読むと理解できないというのは、単なる錯覚である。速く読めば、それだけ考える時間も確保できる。全体像を把握できる。何が重要かを見極めることもできる。従って、むしろ速く読むからこそ、より深く理解できるという逆説的なことが起こりやすくなる。

私はこのような技術を用いて、小論文指導を行っている。私は読む技術を高めることを通して、全国で TOP10 位以内の成績になる生徒を続出させている。部分的な字面の理解は、本当の理解ではない。文章全体を理解するのが、本当の理解である。

理解する頭を作るために必要なこと

速く読んでも、理解の精度を落とさないためには、ある程度読解テクニックがひつようになってくる。

学術的には、読解の方法が研究されているが、あまりシンプルで使い勝手がいいものは一般的にまとめられていないため、私は拙著「速読暗記勉強法」などに、理解のテクニックをまとめた。

簡単に言えば、文章の重要な部分に注目して理解度を落とさない読み方になる。このような読み方をあなたは今までにやっていたらどうか。

もしも、速読をやってみて、あまり理解できなかったのであれば、その読み方に原因がある。読み方を変えればいいのである。

第3章 学習した内容を大量に記憶する

速く読んでも、覚えていなければ意味が無い？

「速読ができて、覚えていなければ意味がないですね？」

というご質問がある。ところが、そうでもないのだ。

なぜならば、そもそも、「速く読むこと」と「覚えること」は別だからである。例えば、あなたも経験があると思うが、ゆっくり読んだからといって、人は読んだ内容を覚えているわけではない。同様に思い出すことができないのである。つまり、読むということは、完璧に思い出せる頭をつくることではない。そもそも、読むということとは、覚えるということではない。

速く読めれば、覚える時間を確保できる



図：「勉強法最強化 PROJECT」エール出版社 共著（医師、弁護士との共著）、「自動記憶勉強法」

大変逆説的だが、速く読むことができるのであれば、記憶することに時間を回せる。従って、やはりここでも、速読が出来る人の方が記憶にも強いということになる。

さらに言えば、人の記憶は、回数で決まる。気合と根性は関係なく、接触した回数で人は記憶する。

あなたは外国語を修得するのは無理に決まっているかと思っているかもしれないが、そもそも、日本語については、数万項目覚えている。それにもかかわらず多くの人は、(たくさん覚えることなんてできやしない！そんなのは全部まゆつばものなんだ！)などと考えている。

人の記憶が根付くのは、神経細胞に刺激があった時である。神経細胞に刺激があるのは、想起した時だ。人は何らかの情報に接した時に物事を想起する。何度も繰り返し読む本やノートの内容が記憶に残るのは、ここに理由がある。繰り返し接触があったものを記憶するように人の記憶はできている。

人は気合と根性をいくら入れても覚えられない。あなたも学生時代に経験したかもしれない。もしあまり覚えられなかったのであれば、記憶の方法があまり適切ではなかっただけである。

日本初の記憶専門の塾「記憶塾」



私は日本で最初の記憶専門の塾、「記憶塾」の設立者である。

記憶のためのソフトウェアを開発し、様々な記憶に関する本を執筆してきた。当然、記憶については、多くの人々が（できるわけがない）と数万項目覚えてペラペラ日本語を話しているのに、思い込んでいるので、誤解されることもある。

記憶については、効果的な記憶方法ばかりを人はイメージしがちだ。「効果的な方法」ではなく、「学習を効率的にする」という考えが大切である。

例えば、数学の問題は、カードを使って覚えれば、1問あたり、10秒程度で処理できる。それにもかかわらず、1問について、30分ほど時間をかける受験生が多い。このような受験テクニックを日本で最初に紹介したのは、東大医学部卒の和田氏である。当時「受験は要領」という本はベストセラーになった。このような画期的な方法を一般の人はあまり知らないために、たくさん記憶することは無理に決まっていると

強く思い込むことが多い。

だから自分たちが、知らない間に日本語を身につけているのに、「ほぼ自動的に何かを記憶することなんか、人間はできるわけがないんだ」などと自己矛盾したことを言ってしまう。

このような活動をしているため、弊社のクライアントには東大OBは全く珍しくない。

プロフェッショナルのお客様紹介 PROFESSIONAL

コンサルタントの田中先生 詳しくはこちら
東京大学経済学部経済学科卒業後東京銀行、外務省、整理回収機構等を経て、三菱東京UFJ銀行を退職し現在はコンサルティング会社代表取締役 に就任。

ファイナンシャルプランナーの鈴木先生 詳しくはこちら
東京大学工学系大学院卒業後、外資系石油会社、証券会社系経済研究所、カタカナ生保での勤務を経て、2000年に兼業型保険代理店を設立、ファイナンシャル・プランナーとして活動。

図：東大卒のプロフェッショナルとして活躍するクライアント様

速読を活用してグルグル回す

速読ができるようになれば、大量に本を読むことができる。大量に本を読み、場合によっては、その内容を切り取り、まとめていくことでも、重要な情報を頭にストックしていくことができる。

当然このような手法を使えば、ノートを取る時間も必要なく、自分にとって必要な情報を素早く頭に入れることができる。何度も見るので頭にも残る。

このような速読を用いた記憶方法が上手になるためには、各種情報の加工方法が得

意になることが大切だ。

他の人の 10 倍の本を読み、他の人の 10 倍記憶することはそんなに難しいことではない。

第4章 話す力

頭でっかちでは意味が無い??

「速読ができたからといって、結局頭でっかちになるんなら意味がないですよ
え？」

これについては、……

そんなことはない！という期待をしていた読者には申し訳ないが、まったくもってそのとおりである。頭でっかちで話すことができない人は、世の中で活躍しにくい。したがって、話す力がどうしても必要になる。しかしながら、この「話す力」は、速読とは本来無関係だ。だから速読が否定される理由にはならない。

話す材料を頭に入れる

「会議で赤っ恥かかされたんです。くやしいです！」

こんな相談を受けることがある。このような状況は、基本的に話す力が無いことに起因することが多い。うまい具合にやり込められているのである。

うまい具合にやり込められている理由はいくつかある。

- (1) 知識が無いので、言い返せない。
- (2) 知識が無いので、相手の言い分について真偽を見抜けない。
- (3) 論理構造が把握できず、議論についていけない。

この中で、(3)については、ここを鍛えるしか無い。しかし、(1)と(2)は、速読である程度解決できる。

知識が無い人は、そもそも物事を勘違いしていることが多い。そこでいろいろな先入観から間違った行動や言説を取る。このような相手に言いくるめられないのは簡単だ。前提が違うことを指摘すればいい。

私は、小論文の講師であり、議論の構造に詳しい。さらに、知識については速読で補充してきたこともあり、議論ではほぼ負けたことがない。議論をふっかけてくる相手は今までたくさんいたが、最後は、向こうが頭を下げていることが多い。

やりこめればいいわけではない



ところが、仕事をしている人なら分かるはずだが、世の中なんでも相手をやり込めればいいわけではない。そんなことをやっていけば、チームワークはボロボロになってしまう。したがって、適度にいなす力や、議論をコントロールする力が重要になる。

「百戦百勝は上策に非ず」である。「戦わずして勝つ」のが良いことが多い。

また、議論に勝ってばかりいると、逆恨みされることもある。そもそもケンカを売ってきているのが相手にもかかわらず、コテンパンにやられると、敵意剥きだして罵り出す。

自分から石を投げてきておきながら、投げ返されると怒るという、大変、たちの悪い連中には違いないが、このような人は世の中に多い。従ってあなたは、話し合う力をストリートファイトで身に付けることが大切になる。

そもそも、大学で教えられるような、スマートな文化を誰も守りはしない。だから大学では理想的、かつ紳士の議論は教えられてもストリートファイトは教えてもらえ

ないのだ。

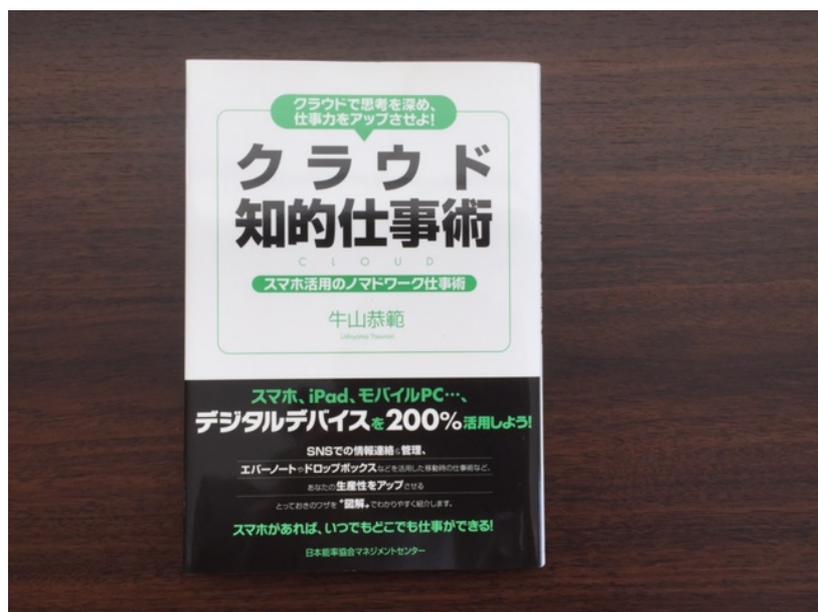
第5章 情報整理でうまくいく

成功する人は整理整頓ができる人



成功する人は物事の整理がうまい。整理とは、決断から生まれる。片付けと整理は違う。片付けとは捨てること、しまうことである。一方で整理とは、物事のあるべき状態に整えることを指す。整理するためには、物事を理解している必要がある。理解しているから決断も早い。

やる気も整理から生まれる



図：「クラウド知的仕事術」日本能率協会マネジメントセンター 牛山 恭範（著）

個人の努力ややる気は、整理から生まれている。物事を整理することができない人は、やる気を持たない傾向がある。自分の心の状態を整理し、整えることができる人は、自分にとって必要なことと、必要ではないことについて理解がある。一方で、自分の心の状態がよく分からない人は、なぜ自分ががんばっているのかも分からなくなる。（これは、本当に自分がやりたいことではなかった）、（こんなにがんばる意味があるのだろうか）などと考えてしまう。しかし、物事を強く決断している人は、物事を決めて断っている。したがって迷いはないのである。迷いが無いということは、エネルギーが集まるということでもある。自分が成すべきことにエネルギーが集まり、行動力が生まれる。

仕事ができる人は、カッチリしている

仕事ができる人には、カッチリしている人が多い。財布の中がごちゃごちゃしていない、机の上が整理されている、本棚が整理されている、ノートが整理されている、ノートの中身が整理されている、スケジュールが整理されている、生活の仕組みが整理されている、行動手順が整理されている、一度終わった仕事が整理されている、などである。

このように、財布や机の上、部屋やオフィス、バックヤードだけが整理されているわけではない。頭の中も整理されている。そもそも、机の上や、本棚、エクセルの中身が整理されているのは、その人物の頭の中が整理されていることが反映されているに過ぎない。一つ一つの物事を整理することができない人は、机や財布の整理すらまならない。どこにレシートがいつてしまったのかをコントロールすることすらできないのである。

重要なことは、頭の中が机や財布を整理できないことにはとどまらない。整理できないということは、生活や行動計画も整理できないことを指す。このような状況では、仕事ができるはずもない。

第6章 論理に弱いとどうしようもない

なぜ論理思考が大切なのか



図：「小論文の教科書」「慶應小論文合格バイブル」エール出版社 牛山 恭範（著）

論理思考が苦手な人は、物事の判断が苦手だ。人が情報を集めて失敗する理由は、少ない情報量で判断を加えようとするからである。

例えば、ここまでにご紹介したように、「速く読んでも、理解できないのであれば意味が無い」というように、本当の理解とは何かという重要な判断基準を持たない判断は多い。

物事に判断を加えるとき、いくつかの前提から論理的に判断しなければならない。ところが、情報量が少ない場合や、論理的に判断を加えることが苦手な人は、多面的に判断ができなくなる。だからこそ、皮肉にも情報を集めることによって、中途半端な判断ばかりを頭に作られて失敗するのである。

逆ステマにやられる人たち



情報量が少ないと、ネットの匿名情報を間うけたりしてしまう。口コミサイトを調べれば、そこで真実を発見できるなどと考えてしまうようになってしまう。今の時代、口コミサイトは、逆ステルスマーケティングの真っ当な場である。従って、考える力がない人から、口コミサイトに書かれていることを間うけて、（しめしめ、情報の裏をとった）などと思ってしまう。

ところが、このような書き込みは、いわゆる逆ステルスマーケティングと呼ばれる営業妨害であることが珍しくない。ゆえに、書き込んだ犯罪者はあなたが勘違いをしているのを見て、（しめしめ）と思っているのである。大変皮肉なことである。

少しも塩辛くない料理が塩辛いと書かれ、事実無根の誹謗中傷が成される。

世界最大手のサムスン電子が、このような評判操作で約 3000 万円の罰金支払いを

裁判所で命じられた。一般の消費者を装って競合他社の製品の評価を貶める記事を量産することを他社に依頼していたのである。このような評判操作は大変巧妙になっており、複数の ID を利用していかにも多くの人が悪く言っているように見せかける、掲示板サイトを荒らす、ステマだと事実無根の誹謗中傷を行う（逆ステルスマーケティング）、「わざと真ん中の評価を入れる」、「一方で良い評価を入れて一方でこき下ろす」などの多様な手口がある。

残念なことはこのような評判操作を真に受ける人がいることである。事実から多面的に考察せず、一面的なもの見方で、判断を加えてしまうのである。つまり、論理思考が苦手であるということだ。

評判が悪いのは目立つ人

「出る杭は打たれる」という言葉がある。目立つ人は叩かれるのが時代の常だ。従ってどのような分野の人でも、その分野で目立ちすぎれば、ねたみや、やっかみの対象となる。問題はそのようなやっかみやねたみから生まれた言説を真に受ける人がいるということである。

真に受けてしまう理由は、自分の目を見て、考える習慣が無いからだ。自分の目を見て、考える習慣がある人は、いちいち評判を気にする必要はない。自分が確認することができるからだ。ただし、残念なことに、判断能力が無い状態では、自分でものごとを判断することができない。言い換えれば、論理思考の力が無ければ、物事の妥

当性は全く分からないということである。さらに言えば、論理思考の力が無いということ、誰の言葉を信用してもいいのかわからないということでもある。適当に述べていることの真偽すら考えることができなくなるからだ。

第7章 機械的に記憶する

記憶は、時にあなたの人生を変える



記憶することは、時に批判の対象になる。単なる丸暗記だ。意味が無い・・・などである。記憶することだけでは、物事はうまくいかないことも多い。しかし、記憶できればうまくいくこともまた多い。

あんな知識があったら、こんな知識があったら、と考えてみよう。大人になればな

るほど、人は勉強する時間が無くなっていく。勉強したからといって何事もうまくいくとは限らないのであれば、なぜ記憶しなければならないのか。

記憶は物事の失敗を減らす。世の中は、自分の代わりにたくさんの失敗をしてくれる・・・とはある有名な経営コンサルタントの言葉だ。自分が失敗しなくても、世間をよく観察すれば失敗しているケースを学ぶことができる。特にこの手の情報がまとめられたメディアは本である。

したがって、世の中の失敗は、本を読めば9割防ぐことができるという人もいる。

情報収集力が無い人は、人の意見を参考にする。そのため評判を調べて失敗することが多い。一方で情報収集力がある人は、いろいろな事例（FACT）を参考にする。いろいろな事例を精査していき、その情報を論理的に読み解き、何が起きているのかを把握すれば、いちいち誰かに物事の判断を教えてもらう必要はない。自分の頭で考えることができる。

▼重要▼

記憶と判断に弱い人：人の意見をあてにする。

記憶と判断に強い人：事実を集めて自分の頭で考える。

失敗する人の共通点

失敗する人の共通点を観察していると、物事に学ばないことが多い。成功する人は、なんでも一つずつ学んでいくのに対して、失敗する人は、学びを重視しておらず、突進することが多い。

失敗から学べない理由は、最初から意識していないこともあるが、記憶する習慣が無いことも原因になっている。

話をしてもこの手の人はメモを取らない。メモを取ればいいわけではない。メモを取らない、一度読んだ本は捨てるという人が成功者の場合、たいてい頭がいいのである。継続的に行動修正する成功体質の人に対して、継続的に何も行動修正が成されない失敗体質の人がいる。

記憶で行動は変わる

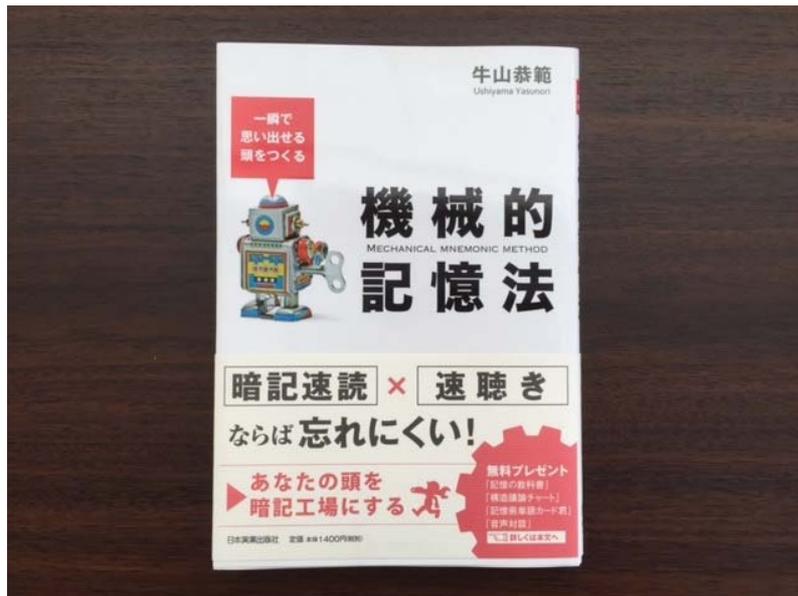
人の行動は記憶で決まる。

人の行動は、その人が持っている感情の記憶によって変わる。このような感情の記憶が人の行動を支配することは東京大学でも研究されている。

自分の行動をコントロールするということは、何らかの自分の記憶をコントロールするということでもある。人の行動をコントロールするということは、何らかの人の記憶に接触することでもある。従ってあらゆるリーダーは、自分の記憶に詳しく、同

時に人の記憶に詳しくなければならぬ。

機械的に記憶する



図：「機械的記憶法」（日本実業出版社）牛山 恭範（著）

記憶作業をするときには、機械的に記憶することが大切だ。記憶が苦手な人は、記憶する仕組みを持っていないことが多い。私は経営学でも注目される生産管理の手法を記憶学習に適用するというユニークな試みを行った。その手法を紹介したのが、「機械的記憶法」である。問題解決学の観点から記憶を解剖し、有効な対策案を立案した。このような学習アプローチを使い、公認会計士や弁理士に合格した人がたくさんいる。

る。ここに問題がある。最終的には、ジプシー状態となる。方向性が定まらず、頭が混乱し、軽い錯乱状態になる。どれが正しいのかわからない。そこで、声の大きい人についていくことになり、やはり失敗することが多い。

単なる「うがった見方」とクリティカルシンキングの違い

（物事を批判的に見ていけばいいんだな・・・じゃあ世の中の情報は全部バカだと思ってしまう！）このように考えるのが実は一番危ない。

昔から「下衆の勘繰り」という言葉があるが、自分の欲求に結び付けて勘ぐるだけの考えが、物事を見破っているという錯覚につながることがよくある。

- ・ ボランティアをしている人を見て、「売名行為」と言う。
- ・ 仕事を頑張っている人を指して「要は金が欲しいだけ」と言ってみる。
- ・ 女性がコートを脱ぐと、「男に胸を見せたいだけ」と言ってみる。

気持ちは分からないでもないが、自分の欲望となんでも結び付けて考えていけば、単なる下衆の勘繰りになってしまう。確かに、このような考えが、的を得ていること

もあるだろう。しかし、そのような考えが当たっているなどという保証はない。さらに言えば、大変さもない考えであるとも言える。

うがった見方は、自分の知性が大変優れているという錯覚につながりやすい。したがってうがった見方しかできなければ、勘ぐることはできても、世の中の実態を逆に見抜けなくなりやすい。

自分を批判的に見る力に真価がある

クリティカルシンキングとは、本来は自分の思考過程にメスを入れるものだ。自分が考えた内容が妥当かどうかを自問する力に、クリティカルシンキングの真価がある。自分のことが正しい、自分の頭が良くて人の頭が悪い、このように考える人の思考力は、低いことが研究で分かった。私は大学院で思考力の研究をしており、私の専門分野は、このような分野である。

自分自身を批判的に考えるということは、大変難しいことでもあるが、訓練を積み重ねれば誰でもできるようになる。何が人の思考力を引き下げ、何が人の思考力を引き上げるのかを学び、物事の考え方を学ぶのである。言うまでもなく、このように物事を考える力は一生役立つ。

第9章 ゼロベース思考で判断力を引き上げる

ゼロベース思考ができる人は未来が見える



まだインターネットの黎明期に、ホリエモンこと、堀江氏が「ネットショッピングみたいに便利なものはないですよ。こんな便利なものはない。だからもっとEコマースは拡大する。」このような趣旨のことを述べていた。彼が当時こんな話をしていた時、『ポカーンとした表情で、「何言ってんの?」という雰囲気』のビジネスパーソンが多かった。しかし、今はどうか。ホリエモンが言った通りになっている。

もろ手を挙げて彼のあらゆる発言すべてに賛成というわけではないが、物事をシンプルに見ることで、人の意見や常識にまどわされず、物事を見抜いていく眼力が堀江氏にあることは誰もが認めるところではないだろうか。

ゼロベース思考とは、物事の先入観にとらわれず、実態を見ることで、物事の妥当

性を考察し、場合によっては『未来を見ることを可能にする思考』である。今の時代がそうだからといって、未来がそうなるとは限らない。しかし、多くの人は、今の時代がこうなので、未来もきつとこうだろう・・・と考えてしまうのである。時代は変わる。

「ゼロベース思考は大切」という考えがそもそもゼロベース思考的ではない

ゼロベース思考は大切なんだ、という考えはすでにゼロベース思考ではない。一種どうでもいいと考えるくらいでちょうどいい。やらなくてもいい・・・くらいの意識が大切だ。

ゼロベース思考に限らず、速読のレポートでこのようなことを言うのはなんだが、速読だってどうでもいいのである。事実速読ができなければならないと考えている成功者はそんなに多くはない。

速読は年収が高い人が強く意識している技術だ。年収で言えば、800万円～3000万円程度の方は、速読ができるにこしたことはないと考えていることが多い。

異常に仕事ができる人で、ゼロベース思考ができない人はそもそもほとんどいない。知らず知らずのうちにやっている、できているということが多い。だから本当に仕事ができる人にとっては、ゼロベース思考がどうでもいいものになる。一方でゼロベー

ス思考が大切だと言っ**て**は**ば**から**ない**のは、ゼロベース思考ができない人であることが多い。したがって「ゼロベース思考が大切」と言っている言説は逆説的だが、取るに足りないとも言える。

(速読が大切だと考える成功者が多くないのであれば、成功するためには速読は重要ではないのではないかと考えるのは、相関と因果の混同である。「相関は因果を内包しない」という言葉があるが、相関関係があるからといって、必ずそこに因果があるわけではない。典型的な例に、(大富豪のトイレはピカピカ) というものがある。大富豪のトイレがピカピカなのは、トイレを大切に**する**考えが成功につながっていると考えるのはいいが、単に豊かな生活故、余裕があるだけという可能性もある。

速読ができれば成功が保証されることはない。しかし、速読ができれば長期的には失敗を減らし、役立つ。できるにこしたことはないのである。速読は本を読む技術ではない。インターネットも速読できる。メールも然り、記事も然り、ツイッターもフェイスブックも同様である。あなたが何から情報収集しようが、聞くよりもはるかに速いスピードで情報処理ができることは間違いが無い。この状態はあなたが死ぬまで続く。文字を読む時間が一日に10分を超えるなら、今速読を身に着けることは、あなたの人生の時間を増やすこと、得る情報量を10倍程度に増やすことにつながるだろう。

発明が可能になりやすい



図：特許査定を受けた特許証 株式会社ディジシステム 出願人 牛山 恭範

私はSNSに関する特許を持っている。この特許はまだSNSの黎明期の時代に考案したものだ。普通に考えて（ゼロベースで考えて）未来は必ずこうなるだろうという形についてのシステムを考案した。この特許は査定を受けて、現在さらに発展的な特許を申請し、海外に出願も控えている。

「今の時代のSNSは〇〇なので・・・」という意見もあれば、「SNSとは〇〇なのだ」という持論を展開する人もいる。しかし、未来のSNSはどうなるか分からな

い。どうなるか分からない分野で特許査定を受けるには、時代を先取りする必要がある。世界 3 位の IT 企業 Google の特許、世界第 7 位の IT 企業プライスラインの特許は、時代を先取りしたものだ。今の時代の〇〇は〇〇なので・・・という根拠で彼らは動いていたわけでもなければ、ネットとは〇〇なのだという考え・認識で動いていたわけではない。未来にどうなるか、どういう状態が理想かを考えていたに過ぎない。

物事をゼロベースで見ることができるということは、産業を変革する可能性も生まれやすいということだ。

もしあなたがゼロベースで考えることになれておらず、世間の常識(言い換えれば、古い過去の常識)にとらわれてしまいやすいのであれば、ゼロベース思考を学ぶことには大きな価値がある。

第 10 章 問題発見思考

問題の認識は十人十色



仕事をする上で、何が問題かを考えることは大変難しい。皆が現状の問題について、違う問題意識を持っている。

会社の業績が悪いとき、何が問題でこのような状態になっているのかをしっかりと考察できる人とできない人がいる。

私はマッキンゼーのOBが作った大学院でMBAを取得した。名前は違うが実質的にはザ・マッキンゼー大学と言っても過言ではないかもしれない。マッキンゼーのOBが教授陣であるため、講義で教えられるのは、世界トップのコンサルティングファームの仕事術だった。その中で、マッキンゼー流の問題発見術をたたきこまれた。いわゆる問題解決学である。MBAのコースでは多くの場合、ケースメソッドと呼ばれる手法で授業が展開される。

特定の企業のケースを取扱い、問題を分析するのである。私にとって非常に興味深

かったのは、多くのエリートが集まるクラスで、皆の分析が違うことだった。

同じ事実を目の前にして皆が違う意見

東大卒や京大卒が集まっており、同じ事実を目の前にすれば、だいたい皆が似たような状況分析になるのではないか・・・正解に近づき、皆正解の答えに近い分析ができるのではないか・・・

こんな考えが入学前には少しあった。しかし、実際に議論を始めると状況は全く違った。同じ事実（データ）を目の前にしているにもかかわらず、物事の認識が皆全く違い、状況分析すらバラバラだったのである。

言い換えれば、より正確に問題を発見できる人もいれば、まったく的外れの状況認識、問題の認識をする人が多かったということでもある。世界トップクラスの企業に勤めている人は多かった。立食パーティーで名刺交換をすれば、世界のトップ企業（フォーチュン500社）に勤めている人はまったく珍しく無い。それだけのエリートがそろって違う意見だったのである。

論理思考に理由がある

なぜ目の前に提示された事実やデータ、資料が同じなのに、皆分析が違うのか。その理由は、データが多すぎて、料理できないことにある。言い換えれば論理思考がで

きないからとも言える。それほど論理思考は奥が深い。パツパツと書店で論理思考本を斜め読みして身につくようなものではない。「知っている」ことと「分かっていること」と「できること」は違うのである。

禁句：「それは知っている」

成功できない人のセリフに「それは知っています。」というセリフがあると、よく成功者は口をそろえて言うものである。ところが、知っていてもできなければ意味が無い。知ることとできることには、大きな開きがある分野も多い。

物事がうまくいかない人に共通するのは、知っていればなんでもできると錯覚していることである。ところが、自分がいざやってみようとする、悲しいほどに低いパフォーマンスしか発揮できない。「私は論理思考ができる」と言う人には、京セラの経営分析をしてみてくださいと言ってみればいい。どれだけできるかは、見る人が見れば一発で分かるだろう。

問題発見を学び、練習する

どうやれば、この問題発見思考が強くなるのだろうか。まずはしっかりとアプローチを学び、練習することだ。状況をより一層正確に分析する手法は存在する。

第11章 問題解決思考

戦略という言葉はかっこうがいいが・・・



問題解決思考というのは、戦略の立案だと考えてもいい。戦略という言葉はかっこうがいいのか、好んで使われる。しかしながら、戦略などと呼ぶに値するようなものは、うまくいっている企業ですら、ほとんどないことも少しも珍しくはない。かっこうがいいので、誰もが使いたがる。受験産業ですら受験戦略という言葉がよく使われる。「分析」という言葉もかっこうがいいのかよく使われる。しかし同様に、「分析」などしていない。表面を撫でただけの感想が「分析」として仰々しく紹介されることも多い。あなたも「傾向と対策」という言葉を見たことがあるだろう。これなどは、

分析知らずの若い学生がころっと騙される典型的な言葉である。

傾向と対策という考えは、傾向にあわせた対策は有効に機能する（はず。）という前提に立っている。また、過去に出題された内容をずらずらと並べると、これが分析ということになるというのも珍しくはない。だからなんなの？という話だが、いたく感心してしまう受験生は多い。場合によっては仰々しいレーダーチャートまで引っ張り出される。しかしながら、そのレーダーチャートの結果、「で・・・どうすりゃいいの？このチャートについては、何の関係がどれくらいあるの？」という問いには、何も答えていない。大変お粗末な分析と言わざるを得ない。肝心要の戦略立案の骨子が無く、実質的になぜその戦略軸で妥当なのかという考察が無い。このような言葉の一人歩きは、受験産業だけではなく、ビジネスの世界でも横行している。

問題の解決とは「言葉遊び」ではなく、実態への対処

問題の解決とは、「空回りする可能性をどれだけ下げられるか」である。短期的にではなく、長期的に空回りを防ぐ確率を引き上げ、見込んだ成果を出すことを指す。少しわかりにくいかもしれないので、若い受験生向けに書いた冊子の内容を以下に少しだけご紹介したい。

-----ここから-----

当然そのような場合には、理想的な分析手法はあるが、コレを使えば分析できるというようなものはない。問題解決学の手法そのものをハウツーだと思っている学生も中にはいるが、そんなことはない。そもそも、問題解決の手法を手順化などすれば、そのような手法はその瞬間に陳腐化する。このような手順化思考は、もっとも考えることに関する素人が陥りやすい罠である。そして、レーダーチャートや手順をもっともらしく「分析」などと言ってしまう。それは分析でもなんでもない。ただの「ハウツーレベルのティップス」にすぎない。（※ティップスというのは、小技、お得情報の類い。）

問題解決学には、理想的なアプローチが存在する。それは問題解決の原理原則に照らして、妥当なものと言える。ところが、仮にこのような問題解決の手法をハウツーとして見た場合どのような問題が起こるか。

目の前の問題を特定のフレームワークに当てはめて、ガチャガチャを回すように思考回路ゼロの状態、適切なことを述べることになる。

少しイメージしづらいと思われるので、分かりやすく言えば、「恋愛のハウツー本を読みまくった人」のようになるのである。恋愛本によれば、異性の気を引くための

ポイントを分析する手順からいくと・・・などというおよそ現実からかけ離れた恋愛対策が成される。例えるなら次の写真のようなものである。

「陸上部の彼のハートをゲットするために、傾向に合わせた筋力トレーニングを1年間がんばったわ」



あの男子は、運動をいつも激しくするような傾向で行っているからして、「傾向と対策」の考え方から言えば、激しい運動をしているあの男の子の気を引くには、私も激しい運動をしている女子になればいいんだわ！（きっと）・・・というように、まったく現実にそぐわない考察がなされてしまう。

そもそもこの文章を読んでいるあなたも感じているように、異性から魅力的にみられるポイントはそのような「傾向と対策」などというざっくりしすぎたどんぶり勘定からはじき出されるものではない。なぜならば、傾向がそうだからと言ってその対策が有効かどうかはわからないからだ。また、その傾向と呼んでいたものが、果たして傾向と結論付けていいのかどうかも、はなはだ疑問である。感性が不足した物事の分析とは、このようにどうでもいい点を重く受け止め、「ズレた分析」に「ズレた対策」を行うような悲劇になりやすいのである。

「編み物好きのあの娘に告白するために、編み物の練習さ。」「まだ一度も話したこと無いけどね。」



こうやって紹介すればいかに馬鹿げたことが日々クールに知的な雰囲気の中で「多くのごまかし」と共に行われているかが分かるだろう。大手のコンサルティングファームのやり取りですら、このようなごまかしはいたるところにあり得る。私たちが問題解決学を学び、本当に小論文に効果的な分析や思考を学ぶ際には、ハウツー本のような考え方をしないことが大切だ。分析には感性が必要なのである。

ナンパに長けた男なら、女性を見て少し話をすれば、いつの間にか相手に合わせた

話をしているものだ。異性との付き合いがうまい男性は、会話を盛り上げるのもうまい。芸能人と言えば、お笑い芸人の陣内氏はその典型かもしれない。

-----ここまで-----

傾向と対策を考える生徒が意外に合格しない理由は単純だ。実力が不足しているからである。甲子園専用野球をやる人よりも、野球の実力がある人が強い。ビーチバレー専用にこだわる人よりも、バレーの実力者が強い。特定の大学の英語にこだわる人よりも、帰国子女の方が、はるかに英語ができることが多い。

問題解決学を用いれば、空回りを防ぎやすい



図：因子構造を図式化した図（難関試験合格について）

プロブレムソルビングアプローチと呼ばれる手法がある。これは、問題解決の原理原則に照らして、より有効な問題解決を図る一連の手法である。なんらかの現象には

必ず原因があるため、その原因を様々な手法によって突き止めていく手法だ。若干専門的な分析手法を用いることが多いが、単に『原因を追究して対策を考える』などという「ざっくりしすぎたどっぷり勘定的な対策」よりもはるかに精度の高い対策案の立案が可能になる。問題の解決は練習によってうまくなる。まずは問題解決を学び、そのあとに練習することが大切だ。

問題解決学は目標設定を可能にする

言うまでもなく、問題解決とは、あなたの目標設定力を高めるものだ。戦略の立案は、長期的な目標設定をより妥当なものとする。

うまくいっていないので、目標設定がうまくいっていないのだ・・・とはよくありがちな誤解である。金融工学の考えから言えば、無数の失敗は、長期目標に資することが珍しくはないからである。したがって失敗する可能性がある、あるいは高いのでやらないというのは、必ずしも良い判断ではない。例えばキャノンが無数の特許を取得しており、その中のいくつかが成功するのはその典型である。

第12章 実行と達成

知識を考へに落とし込む



いくら学んでも、あなたの考えが変わらなければ意味が無い。学ばなくていい人とは、すでに理想的な考えがある人である。人は本、人、状況、メディアから学ぶ。このような学びを通して、何らかの考えが変わらない時、その人は成長していない。人が成長するとは、何らかの新しい考え方が身につくことを指す。

考えが変われば、行動が変わる

知識が増えても人の行動は変わらない。知識だけ増えて考えが変わらない時は、何も成長しない。したがって、本を読むのは大変けっこうだが、考えることが大切だ。考えが変われば、人の行動は変わる。行動が変われば、世界が変わる。行動を変えれば、あなたは状況を変えることができる。

本を読んでも意味が無いって？真に受けた

の？

少なくとも今の時代はまだ、本に価値がある。少しおかしな時代にはなってきたが、もっとより良い理想的な時代に近づきつつあるのかもしれない。「本なんか読むな！動け！」とは大変良いアドバイスだ。

事実そうだからだ。その通り。しかし、同時に次のことも正しい。

- (1) 本を読んでいれば防ぐことができた失敗をして、泣いて悔しがる人は多い。
- (2) 本を読むのに時間をかけなければいい。
- (3) 本を読むなと言っている人はネットからの情報収集をしていることも多い。

要は、本もネットも時間をかけずに情報集して動けばいいのである。本を読むなというアドバイスは参考にすべきアドバイスだ。しかし、それは時間がかかることが前提になっている。したがって、「本は時間をかけずに読み、たくさん動け」と言われていると考えればいい。本は読むな！そして、このメルマガもブログも絶対読むな！このツイートも読まずにフォロー解除しろ！とアドバイスする人はいない。

▼重要▼

情報はあるにこしたことはない。情報を得て、考える精度を高め、その時間を減らし、そして動けばよい。

天才は勉強するな！凡人は勉強せよ！

あなたが天才なら勉強する必要はない。今の時代は、なんでもできる時代だ。しかし、あなたが凡人ならば、悪いことは言わない。学習力をつけるべきだ。そして行動を起こせばいいのである。なぜそうする方がいいのかについては、このレポートに書いた。今の時代は、昔に比べて情報が豊富である。したがってより良い判断ができるというわけでもない。必ずあなたの判断を惑わせる別の情報も存在するからだ。情報を持つものは、人よりも一歩先を行く。しかしそれは、その情報を判断できる人限定である。

私の情報一本に絞れば大丈夫！？

「私の情報一本に絞りなさい！」とは、けっこうなアドバイスである。そもそも、私も学習カテゴリについては、そういうことを言っている。

ただ、そうは言っても、あなたはきっと不安だろう。いくらか不安があるはずだ。

なぜならば、皆どの情報提供者も口をそろえて「私の情報一本に絞りなさい」と言っているからである。

つまり、私がどう言っているかなど、おかまいなしに、すでに状況がそうになっている。これはあらゆる産業、あらゆる分野に言えることであり、世界のあらゆる地域で

起こっている現象だ。だから、私がこのように発言することについて気を悪くする人はいるかもしれないが、だからといって、私が仮にいなくても状況は同じである。私が言わなければ、他の人がきっと発言するだろう。

ではどうすればいいのか。その答えがこのレポートの内容である。

以下のまとめの通りにすれば、あなたは誰が言っていることが本当だとしても、より良い選択をすることができる。

【まとめ：どうやれば、あなたが大量の情報に悩まなくなるのか？】

以下の12のポイントを大切にすれば、あなたは今後の人生で大量の情報に悩まなくなる。

ポイント1：速読を身に着ける（実践的な速読）

ポイント2：速読をしても理解できる頭作り（理解速読）

ポイント3：学習した内容を大量に記憶する（暗記速読）

ポイント4：話す力を身に着ける（現実への対応・適応）

ポイント5：情報整理のスキルを上げる

ポイント6：論理的に弱いとどうしようもないので鍛える（論理思考）

ポイント7：機械的に記憶する

ポイント8：本当のような嘘を見抜く（クリティカルシンキング強化）

ポイント9：ゼロベース思考で判断力を引き上げる

ポイント10：問題発見思考を身につける

ポイント11：問題解決思考を身につける

ポイント12：実行力と達成力を強化する

おわりに

無数の情報、無数の本の内容から、今のあなたにとって重要な情報を得た後、頭の中で整理して、物事を考える。そんなことをしても、3日後のあなたに変化はない。しかし、3年後のあなたには大きな変化が生まれるだろう。その成果、波及効果は一生続く。このレポートで紹介したように、速読ができる人とできない人では、30年間で1万冊近い知識の差が生まれる。

そして、あなたの時間は、あなたの人生そのものである。あなたの人生をとるに足りないものだと思わないのであれば、時間は言うまでもなく貴重だ。その時間を得る方法がある。情報活用に変化を起こすことである。

今すぐ、速読を活用した情報処理、情報活用で、楽しい情報活用生活を始めてみよう！時間はかからないのだから。

《プロフィール》

牛山 恭範 Yasunori Usiyama

- ・スキルアップコンサルタント
- ・ヤフー(Yahoo)知恵袋 専門家回答者
- ・専門家集団Allabout スキルアップの担当ガイド



人を成長させる事が専門。決して頭がいいわけでもなく、勉強が得意ではなかったが独自の記憶法を使うことで慶應義塾大学 SFC にダブル合格する。2008 年 1 月 1 日にエール出版より出版された「自動記憶勉強法」は、ほぼほったらかしの状態で記憶量を増やす為、数万項目の記憶が 放っておいても作る事ができ、暗記項目(科目数など)の多さと難易度の関係を大きく下げること成功。クライアントはこれらの手法を用いて数十冊の問題集を記憶し、難関試験に合格。(大阪大学大学院主席合格の実績もあり。)資格試験受験生向けに出版した『機械的記憶法』などの著書がある。

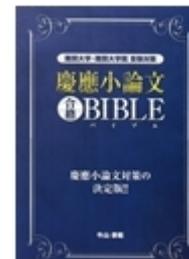
2009 年、技術習得の理論・原理(成長の原理)を「目標達成論」(エール出版社)で発表。その他高速学習(どんな人でも大量の記憶を形成させる)を可能にする、プロフェッショナルとして、年間約3千のメールサポート・電話サポート・直接指導をクライアントと行い、累積数 1 万を超えるサポート実績がある。

慶應義塾大学総合政策学部在学中にパソコンの家庭教師などを経て起業し、現在株式会社ディジシステム代表取締役。技術の習得に関する周辺と、それを可能にする頭脳に関して研究を重ね現在に至る。(大学院では、思考力の研究を行い、研究は成功した。)現在は研究の成果を活かし、需要の多い分野で教育カリキュラムを構築し、技術を提供。

ビジネスブレークスルー大学大学院(Kenichi Ohmae Graduate School of Business)経営管理研究科修士課程修了。(MBA)スキルアップの知見を用いることで、牛山自身の能力が低いにも関わらず、同大学院において、『東大卒、東京大学医学部卒、京都大学卒、東大大学院卒(博士課程)、最難関国立大学卒、公認会計士、医師(旧帝大卒)、大

プロフィール詳細 [マスコミ掲載歴](#)

(雑誌の取材を受けました)



勉強法最強化 PROJECT は石原弁護士、斉藤医師との共著

学講師等エリートが多数在籍するクラス』(平均年齢 35 歳程度)において成績優秀者(写真)となる。個人の能力とは無関係に「思考・判断力」「多くの記憶作り」等で結果を出すことができるスキルアップコンサルタントとしてマスコミに注目される。(読売新聞・京都放送など)他の「もともと能力が高い高学歴な学習支援者」と違い、短期間(半年から1年)で、クライアントを成長させることが特徴。

マッキンゼーの問題解決思考を上記大学院の学長である大前研一氏から直に師事を受け、各種技術習得、及び、問題解決型の 学習コンサルティングに活かした活動を行っている。(記憶作業を単なる記憶方法とせず、記憶ができない事に対する本質的な問題解決と位置付け、サービスを提供。)



《牛山執筆のコラム》

【著書】

- ・「小論文技術習得講義」(改訂版あり。)
- ・「自動記憶勉強法」(改訂版あり。)
- ・「なぜ人は情報を集めて失敗するのか？目標達成論」(改訂版あり。)
- ・「勉強法最強化PROJECT」(弁護士・医師との共著)
- ・「慶應大学絶対合格法」
- ・「慶應小論文合格 BIBLE」(改訂版あり。)
- ・「機械的記憶法」
- ・「クラウド知的仕事術」
- ・「小論文の教科書」
- ・「速読暗記勉強法」
- ・「難関私大対策の急所」
- ・「AO 入試対策とプレゼンテーション合格法」

【マスコミ掲載事例一部】

- ・読売新聞(全国版)学ぼうのコーナーにて 8 回掲載(週間企画)
- ・京都放送 TV番組ポジぼじたまご 会社紹介 平成 23 年 10 月 7 日
- ・京都放送 TV番組ポジぼじたまご 平成 23 年 11 月 4 日放送
- ・産経関西 20 年前とは変わった受験事情 平成 23 年 12 月 9 日



All About プロファイル

ワタシ×プロのチカラ
<http://profile.allabout.co.jp/>

(専門家サイトオールアバウトでの牛山執筆の
 コラム)

速読レッスン第1回・・・速読の考え方と練習

速読レッスン第2回・・・速読のやり方と練習

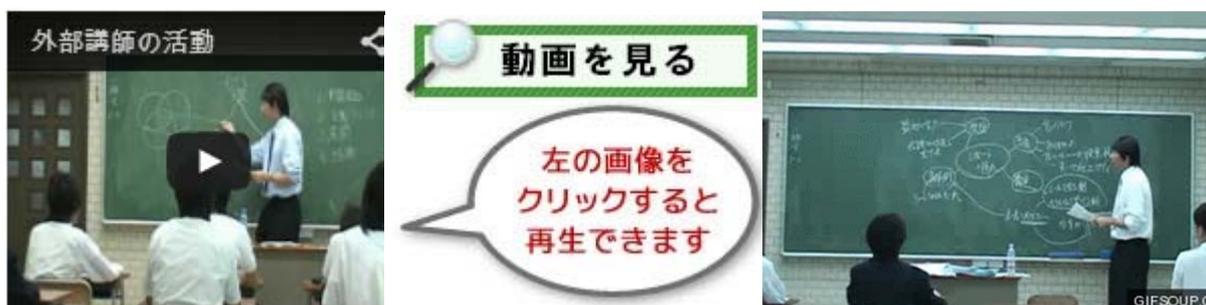


牛山ってどんな人？

【クライアントの実績の一部】

- ・教え子がダブル E 判定から慶應大学に合格。
- ・教え子の成績がTOP0.1%に引き上がる。
- ・全国3位に急成長→慶應大学A判定に。
- ・北海道大学法科大学院次席合格。
- ・女子高生が2時間で速読を習得→名門津田塾大学に合格。
- ・医師の国家試験、公認会計士試験、薬剤師試験、弁理士試験など、難関国家試験にクライアントが合格。
- ・国立私立、資格試験、国家試験問わず、希望の試験に合格。
- ・全国模試で英語で二度日本一。
- ・慶應大学4学部(法・経・総・環)合格。
- ・大阪大学大学院主席合格。
- ・上記の他に、名門大学院、最難関大学院、京大、東京大学大学院などに合格実績がある。

外部講師活動



全国の高等学校で外部講師として活動(紹介動画)撮影許可を頂いて撮影しました。2008年7月の映像です。

【京都放送様】



**KBS京都(京都放送)様のTV番組
「ぽじポジたまご」で
会社やサービスが紹介されました!**

どんな会社、サービス内容かをご覧ください。

再生しながらこのページを
お読みいただけます。



▼放送内容（映像）はこちら▼

<https://www.youtube.com/watch?v=SwBuRcIvVXc>

【プレジデントファミリークラブ様】

学校を知る 受験に役立つ 子どもを伸ばす 世界で活躍する 本誌連動企画 イベント

慶応大学に合格するための秘訣は？
小論文の対策にはどんなことをしたらよいの？



「慶応大学絶対合格法」の著者である牛山先生による、「慶応大学に我が子を確実に合格させる教育法」をシリーズで公開！

詳しくはこちら [CLICK](#)

メルマガ会員登録
姓 名
姓... 名...
メールアドレス
XXX@XXX.XX...
購読する

早稲田アカ

『慶応大学に我が子を確実に合格させる教育法』プレジデント FamilyClub 様（メディア掲載）

- 第1回 ⇒ [「従来の教育法では慶應に益々合格しにくくなる」](#)
- 第2回 ⇒ [「慶應大学合格に必要な要素と中核」](#)
- 第3回 ⇒ [「慶應大学合格に有効な受験対策（前編）」](#)
- 第4回 ⇒ [「慶應大学合格に有効な受験対策（後編）」～「受け身の学習」から「攻めの学習」に変化させる～](#)
- 第5回 ⇒ [「慶應小論文対策で失敗しないための根本的対策」](#)
- 第6回 ⇒ [「信頼関係と素直な心で慶應受験に強くなる」](#)

【読売新聞様 全国版 全8回連載】



12月 10

読者近況

12月 10

読者近況

記憶法・好きな人でイメージ化

1月

読者近況

読者近況

12月 10

読者近況

12月 10

読者近況

記憶法・音でムリなく確実に

読者近況

読者近況

12月 10

読者近況

12月 10

読者近況

記憶法・「ながら」で長続き

span

読者近況

読者近況

12月 10

読者近況

12月 10

読者近況

記憶法・10語を一つの固まりに

読者近況

読者近況

12月 10

読者近況

12月 10

読者近況

記憶法・抜き出しは半年前から

読者近況

読者近況

12月 10

読者近況

12月 10

読者近況

記憶法・文章で一度にまとめて

読者近況

読者近況